

# と畜場搬入豚におけるサルモネラ保菌実態調査

○ 仁和岳史 高馬洋之 岡田峰幸 竹田憲生 朝原幸穂  
小野寺 功 西阪めぐみ 岡野 肇  
千葉県東総食肉衛検

## I. はじめに

サルモネラ症は各種の動物、鳥類に発生をみる人獣共通感染症で、多数の血清型を有するサルモネラ属菌によって引き起こされる疾病である。豚から様々な血清型のサルモネラ属菌が分離されることが報告されていることから、健康肥育豚についてサルモネラ属菌の保菌状況を調査した。また分離されたサルモネラ属菌について血清型、薬剤感受性についても調査したので報告する。

## II. 材料および方法

1. 材料：平成21年10月から12月、平成22年9月から平成23年1月に管内Aと畜場に搬入された健康肥育豚の盲腸便スワブを検体として実施した。2. サルモネラ属菌の分離方法：検体をBPW培地にて37℃で18～24時間で前増菌培養後、ラバポート・バシリディアス培地にて42℃で18～24時間増菌培養を行った。増菌培養後のラバポート・バシリディアス培地をDHL培地、XLD培地、クロモアガーサルモネラ培地に塗抹し、37℃で18～24時間培養した。TSI、LIMにて生化学性状を確認し、免疫診断用血清を用いて血清型別を実施した。3. 薬剤感受性試験：アンピシリン(ABPC)、クロラムフェニコール(CP)、テトラサイクリン(TC)、ストレプトマイシン(SM)、カナマイシン(KM)、ナリジクス酸(NA)、ホスホマイシン(FOM)、ノルフロキサシン(NFLX)、セフトキシム(CTX)、スルファメトキサゾール・トリメトプリム(SXT)の10種類について1濃度ディスク法により実施した。

## III. 成績

1. 保菌状況：465検体中32検体(6.9%)からサルモネラ属菌が分離された。分離された各血清型の保菌率は*S.Derby*が5.4%(25/465株)、*S.Typhimurium*が1.1%(5/465株)、*Salmonella* O4:i:-が0.4%(2/465株)であった。2. 薬剤感受性試験：*S.Derby*では25株中21株に耐性が見られ(SM単剤耐性3株、SM・TC耐性18株)、*S.Typhimurium*では5株中4株に耐性が見られた(SM単剤耐性3株、ABPC・CP・SM・TC耐性1株)。*Salmonella* O4:i:-では得られた2株全てで耐性が見られた(ABPC・SM・TC耐性)。

## IV. 考察

今回の調査で最も多く分離された*S.Derby*はヒトへの感染報告は少ないが、国内でも食中毒事例が認められるものであることから、引き続き注視していきたい。また、家畜伝染病予防法の届出伝染病に該当する*S.Typhimurium*とそのH抗原2相欠失型である[O4:i:-]が分離されている。更に調査を継続し、汚染農家の検出状況の推移などの更なる知見を得て、家畜保健衛生所へ情報提供することで、安全な食肉の提供へ繋げたい。